

第 2 回 SPARC Japan セミナー2020

「プレプリントは学術情報流通の多様性をどこまで実現できるのか？」

開会挨拶 / 概要説明

矢吹 命大

(横浜国立大学大学戦略情報分析室)

矢吹 命大

2020年度SPARC Japanセミナー企画ワーキングメンバー。横浜国立大学大学戦略情報分析室准教授/研究推進機構リサーチアドミニストレーター。筑波大学大学院人文社会科学系研究科国際政治経済学専攻単位取得退学、修士（国際政治経済学）。筑波大学大学院人文社会系特任研究員として巨大科学を巡る国家間関係の研究に従事した後、2014年横浜国立大学特任教員（講師）・URA。2020年4月より現職。大学戦略情報分析室において大学経営判断を支援する各種情報収集、提言を行うと共に、URAとしては研究力分析、オープンサイエンスの推進に取り組んでいる。



セミナーの企画概要

昨今の COVID-19 を契機としてプレプリントの活用がますます活発化していることについては、皆さまお聞き及びのことかと思えます。それに加えて、プレプリントが多様なプラットフォームにおいて公開されるという状況にあり、もはや学術出版社においてもプレプリントの公開を後押しするといった状況にあります。本セミナーでは、多様なプレプリントの公開について、最新動向やその目的を皆さまと共有し、今後のプレプリントの方向性を展望します。そのため、講演では多様な立場からのプレプリントに関する話題と事例を紹介いたします。

冒頭では、国立情報学研究所の河合先生から「機関リポジトリによるプレプリント公開」と題して、機関リポジトリとプレプリントの関係について、また、パネルディスカッションでも中心となる Bibliodiversity（書誌多様性）に関してお話しいたします。

続いて、筑波大学の森本様から「研究成果公開のグローバルスタンダードに向けた筑波大学の取り組み」と題して、人文社会系評価指標のお話と、最近始まっ

た、オープンピアレビューから出版までのフローが含まれる F1000Research を利用する筑波大学ゲートウェイのご紹介を頂きます。

続いて、シュプリンガー・ネイチャーのアントワーン・ブーケ様より、「コロナ時代における研究情報発信—プレプリントに関する出版社の取り組み」と題して、学術出版社におけるプレプリントについて話題提供を頂きます。

後半では、広島大学の坊農先生から「生命科学研究におけるプレプリントや SNS 活用の現状と課題」と題して、研究現場におけるプレプリントの利用と課題、アカデミック SNS の活用についてご紹介いただきます。

最後に京都大学の引原先生から、「Preprint が誘導する研究サイクルの力学考」と題して、大きな観点から研究におけるプレプリントについてお話を頂きます。

パネルディスカッションにおきましては、最初の講演者の河合先生が監訳されたオープンアクセスリポジトリ連合による論文「Fostering Bibliodiversity in Scholarly Communications-A Call for Action！」（邦訳：「学術情

報流通における『書誌多様性』の形成に向けて一行動の呼びかけ―)に示されている学術情報流通における多様性の障壁とされた4項目、すなわち、①共通言語としての英語が優位であること、②基盤とサービスが一部に集中していること、③資金モデルが限定的であること、④学術雑誌ベースの評価という偏狭な視点があることに沿って議論します。